

# インドネシアからの留学生（看護学科）が 附属診療センターでの見学実習を修了しました

2014年9月から看護学科に留学中のインドネシア教育大のデウィさんとフィンディさんのお二人が、小児科診療1回、小児看護相談1回、理学療法3回、作業療法3回、計8回の附属診療センターでの見学実習を修了し、このたび実習証明書を手渡されました。担当教員から説明を受けたり、患者さんと一緒に活動したり、有意義な時間を過ごせて楽しかったそうです。

インドネシア教育大ではPT、OT、STの養成コースはなく全体のセラピスト数も日本より少ないため、今回の見学実習は全体を通して興味深かったそうです。「特にホリスティックなケアが行われているところに関心をもった。色々な病気に対して治療や新しい療法を見ることができた。日本では小学校に入る前に発達の相談ができるが、インドネシアでは行われていないので、自国でもそういうことができればいいと思う。」とデウィさんは話してくれました。

今回の日本のリハビリテーション医療に実際に接した体験が、今後の彼女たちの活躍に寄与することを願っています。

